

11 日本体育・スポーツ経営学会第29回大会発表

「マナーキッズ®テニス教室の評価と今後の課題」

篠原 梢（早稲田大学） 木村和彦（早稲田大学教授） 原田尚幸（和光大学教授）

1. 緒言

近年では、青少年のマナーの乱れが社会問題として注目を集めるようになっており、「しつけ喪失」と形容されている。子どもを持つ保護者は、スポーツ活動に対して礼儀やマナーといった基本的な生活習慣の形成や社会性の育成、さらには責任感や忍耐力といった精神面の育成という人間的な成長に期待していることが指摘されている。(山口, 2004)

このような社会的背景の中、「マナーキッズ®テニスプロジェクト」が2004年から始動した。このプロジェクトは、財団法人日本テニス協会が子どもたちにテニスというスポーツに親しんでもらいながら世界レベルの競技者の育成を目指すと共に、専門家による挨拶、礼儀作法の基本的なマナーの習得、スポーツマンシップの体得などを目指している。

2. 結果(要旨)

保護者がマナーキッズ®テニス教室に子どもが参加したことで期待する効果については、「テニスに親しむきっかけ」に対する期待が高く、以下「礼儀・マナーの習得」「仲間との触れ合い」の順になっていた。

保護者のマナーキッズ®テニス教室に対する評価は、「子どもがテニスに親しむきっかけになった」「子どもがテニスを楽しんでいた」に対する保護者の評価が高くなっており、以下「保護者自身のマナー・躰についての理解が深まった」の順になっていた。

今後も子どもが通う幼稚園や小学校、または自治体でマナーキッズ®テニス教室の開催を望むかどうかについては、「続けて欲しい」と回答した人が圧倒的に多くなっていた。(98.4%)

マナーキッズ®テニス教室に対する保護者の満足度に最も影響を及ぼす要因は、「保護者自身のマナー・躰についての理解が深まった」ことであった。その他で有意に影響を及ぼす要因は、「子どもがテニスに親しむきっかけになった」「子どもの礼儀・マナーが身についた」「子どもがテニスを楽しんでいた」であった。

5. 結論(要旨)

マナーキッズ®テニス教室に子どもが参加することで保護者に期待する効果には、子どもの変化のみに焦点が絞られていた。しかしながら、実際に教室へ参加した保護者の満足度に最も影響を及ぼしていたのは、子どもの変化のみならず保護者自身がマナーや躰に対する理解を深めることであった。このことから、マナーキッズ®テニス教室では、子どもと一緒に保護者が直接的、間接的に参加して同時に学ぶことが非常に重要であるといえる。

子どもと保護者が同時に学ぶことにより、教室参加後も家庭や地域においてその効果を持続させる環境づくりに留意する必要がある。

今後は、指導者の育成を踏まえつつ、幼稚園・小学校といった「学校」が連携を図りながらマナーキッズ®テニス教室で学んだことを実践していくことが重要であると考えられる。